

<第29回調査>

2011年10月31日

### 【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

### 【調査実施期間】

2011年10月18日(火)13:00～2011年10月25日(火)13:00  
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

### 【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

### 【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。  
今回の有効回答数は577件。  
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

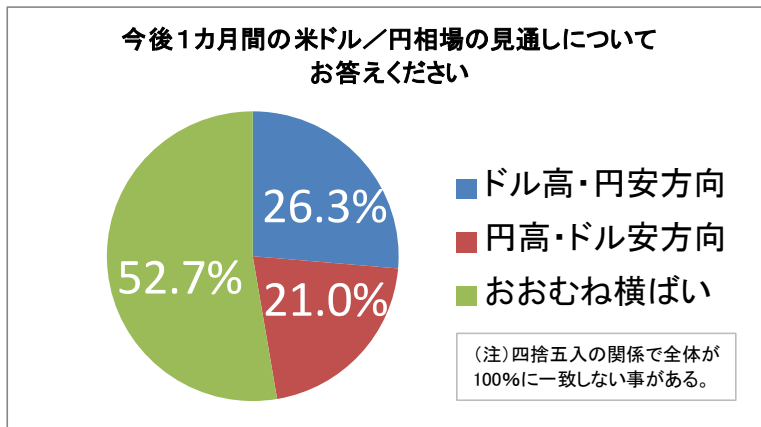
Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第29回調査結果略報：ドル円予想DI4カ月ぶりにプラスに転換】

問1：今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

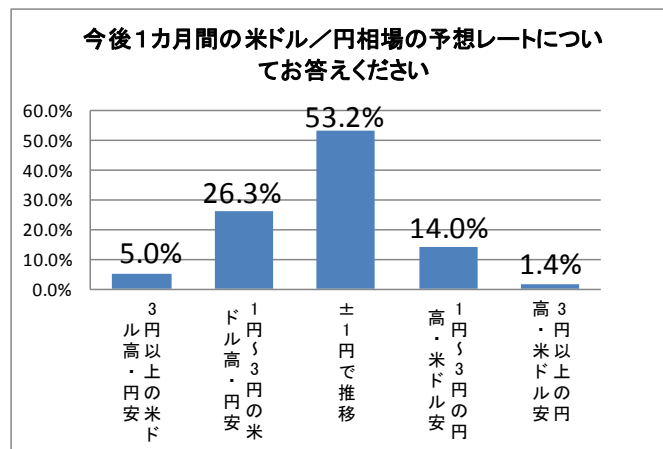
「今後1カ月間のドル円相場見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が26.3%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が21.0%となった。この結果、「ドル円予想DI」は+5.3%ポイントとなり、前回調査の▲4.0%ポイントから4ヶ月ぶりにプラスに転換した。調査期間中のドル円相場は一時75.79円まで下落して戦後最安値を更新する場面もあったが、FX投資家の真骨頂といえる「逆張り」を志向する向きが増加したようだ。ドル円相場が歴史的な安値水準にまで下落した事による「値頃感」や本邦通貨当局者から口先介入が相次いだ事による「円売り介入期待」が、FX投資家の相場観をわずかながらドル高・円安方向に転換させたものと考えられる。

※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間のドル円相場の予想レート」については、「±1円で推移」が53.2%と最も多く、次いで「1円～3円の米ドル高・円安」が26.3%、「1円～3円の円高・米ドル安」が14.0%、「3円以上の米ドル高・円安」が5.0%、「3円以上の円高・米ドル安」が1.4%の順になった。ヒストグラムの形状は、わずかにドル高・円安方向に傾いており、問1の結果と整合的と言える。もっとも、「±1円で推移」と答えた割合が過半数を占め、問1の結果でも「おおむね横ばい」が過半数を占めたように、膠着相場が続くと見ているFX投資家が多く、ドル高・円安が進んだとしても、比較的小幅なものにとどまるとの見方が多いようだ。

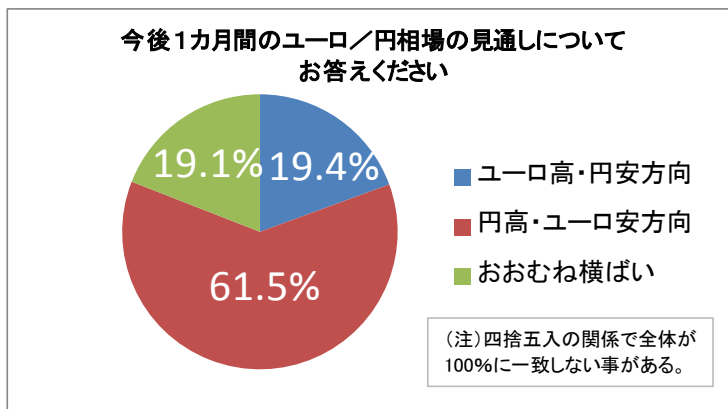


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

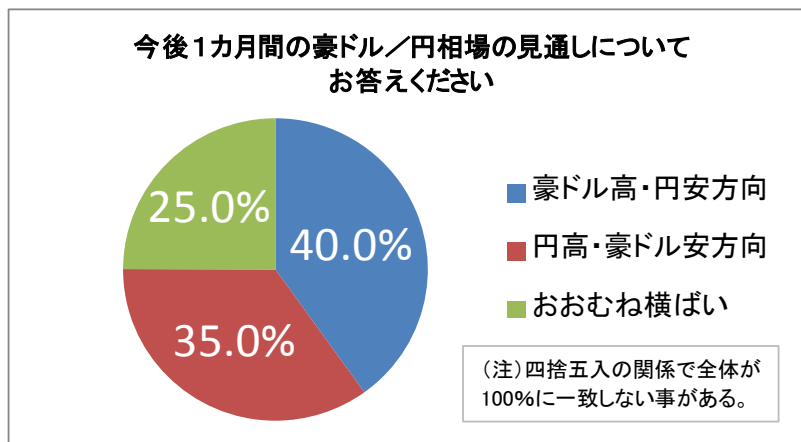
**問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください**

「今後1カ月間のユーロ円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が19.4%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が61.5%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は▲42.1%ポイントとなり、前回調査の▲37.5%ポイントからマイナス幅が拡大。2010年5月の第12回調査で記録した▲37.7%ポイントを下回り過去最大のマイナスDIとなった。調査期間中のユーロ円相場は、104.77円から106.53円のレンジで乱高下しつつも比較的底堅く推移したが、根強い債務問題への懸念からユーロ弱気・円強気派の勢いに衰えは見られない。  
 ※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



**問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください**

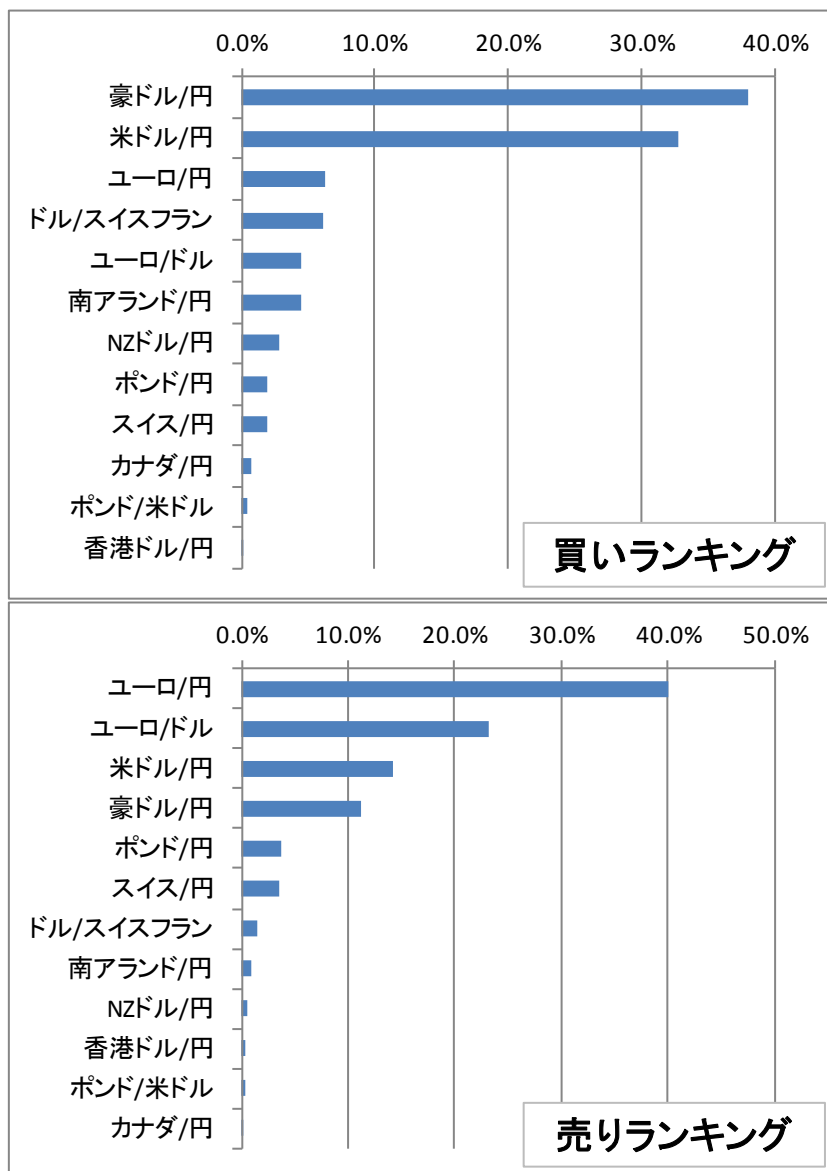
「今後1カ月間の豪ドル円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が40.0%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が35.0%となった。この結果「豪ドル円予想DI」は+5.0%ポイントとなり、豪ドル強気・円弱気予想は維持したものの、予想DIのプラス幅は4ヶ月連続で1ケタ台にとどまった。調査期間中の豪ドル円相場は、主要国株価が戻り歩調となる中、77.60円から79.81円のレンジで比較的堅調に推移したが、過去に見られたようなFX投資家の豪ドル強気姿勢が大きく回復する事はなかった。欧州債務問題に加え、豪州では利下げ観測がくすぶっており、これらがFX投資家の豪ドルに対する強気姿勢を鈍らせていると見られる。  
 ※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

**問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください**

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位豪ドル円(38.0%)、2位ドル円(32.8%)、以下大きく離れて3位ユーロ円(6.2%)、4位ドルスイス(6.1%)、5位はユーロドル(4.5%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ円(40.0%)、2位ユーロドル(23.2%)、3位ドル円(14.2%)、4位豪ドル円(11.3%)、5位ポンド円(3.8%)となった。「買い」で注目の通貨ペアでは豪ドル円とドル円が1位、2位を占める傾向に変わりはないが、「売り」で注目の通貨ペアでは、ドル円が前回調査の2位から後退、回答割合も24.4%から大きく減少した。ドル円相場が歴史的安値水準にある事で売り興味が後退したと考えられる。ただ、「買い」で注目の回答割合が前回の31.4%から大きく増加していない事を考慮すると、比較的値動きが小さいドル円相場そのものに、FX投資家が興味を失いつつあるとの可能性も否定できないだろう。

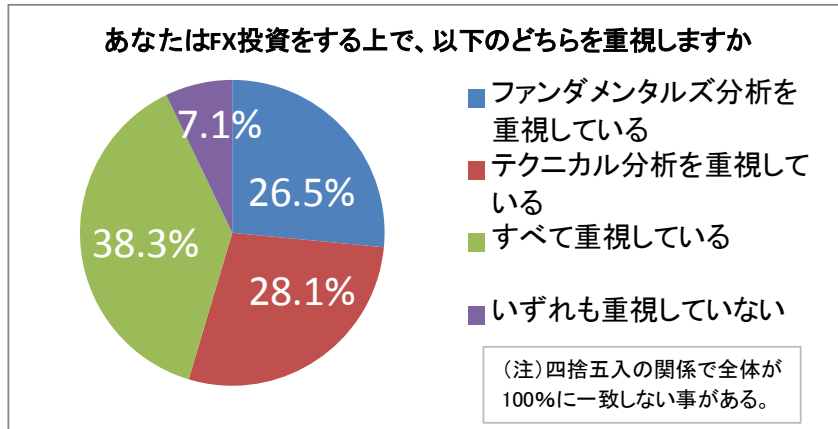


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

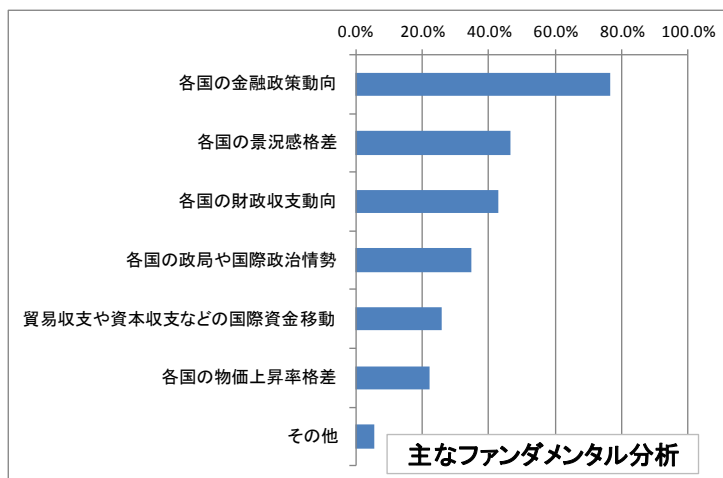
**問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?**

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が26.5%であったのに対し「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が28.1%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が38.3%と引き続き最も多く、「いずれも重視していない」は7.1%であった。調査開始以来、FX投資家の分析手法の好みに顕著な偏りは見られない。「ファンダメンタルズ重視派」と「テクニカル重視派」、「両方重視派」がバランスよく混在していると言えるだろう。



**問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか?**

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(76.6%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(46.5%)」、「各国の財政収支動向(42.9%)」、「各国の政局や国際政治情勢(34.7%)」、「貿易収支や資本収支などの国際資金移動(25.8%)」、の順に続いた。今回も引き続き「各国の金融政策動向」が他を大きく引き離して7割以上の回答割合を集めた。先進国の間では低金利政策を採る国が多く、実際の金利差はそれほど大きいとは言えないが、最も基本的な為替相場の変動要因である「金利差」につながる「金融政策格差」や「景況感格差」に注目するFX投資家が多数を占める傾向は調査開始以来変わらない。

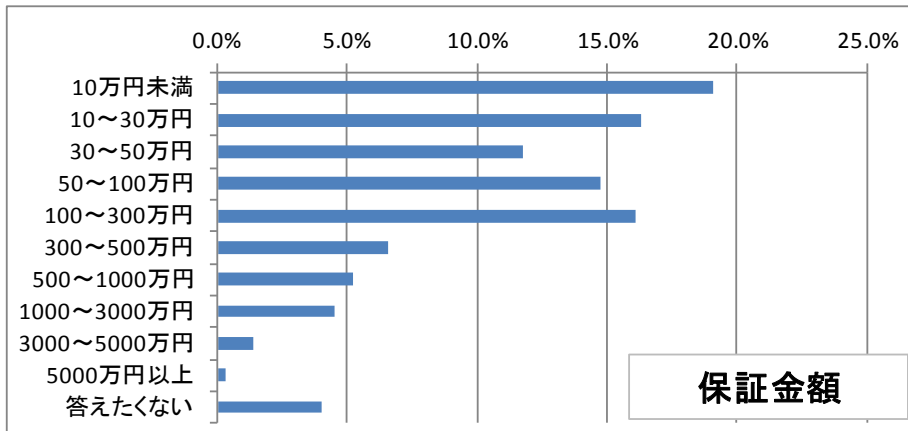


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

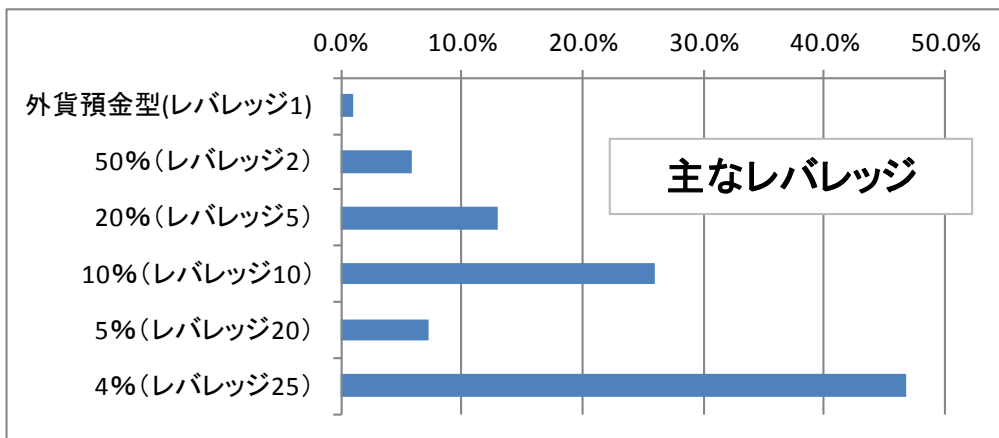
**問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください**

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が19.1%と最も多く、以下「10～30万円(16.3%)」、「100～300万円(16.1%)」、「50～100万円(14.7%)」と続いた。100万円以下の保証金で取引を行うFX投資家の合算割合が前回調査の70.5%から61.9%に減少した一方で、1000万円以上と答えた合算割合は2.8%から6.2%に増加した。単月の調査だけで結論を下すのは早計であるが、8月のレバレッジ規制(上限50倍から25倍へ)から約3カ月が経過して、FX投資家が、より高いパフォーマンスを追及するために保証金を増額し始めた可能性が感じられる。次回以降の調査結果に注目しておきたい。



**問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？**

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が46.8%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が26.0%、以下「20%(レバレッジ5)」が13.0%、「5%(レバレッジ20)」が7.3%、「50%(レバレッジ2)」が5.9%と続いた。8月のレバレッジ規制以降の調査では3回連続で「4%(レバレッジ25)」の回答割合が増加しており、今回の調査では半数近くのFX投資家が、規制の中での最大レバレッジを選択している事が分かった。比較的値動きが小さいドル円を取引して収益を目指すために、最大レバレッジを活用して取引数量を増やしたFX投資家が増加している可能性もありそうだ。

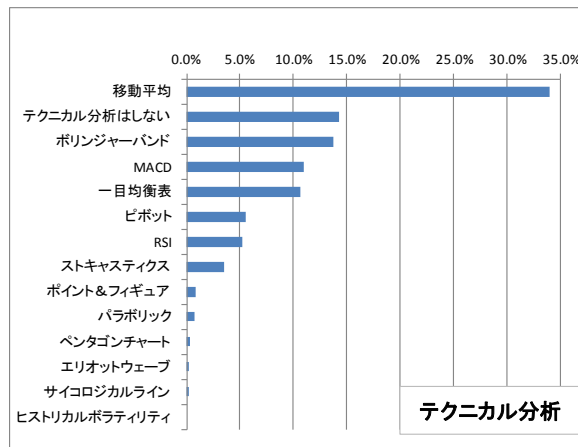


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

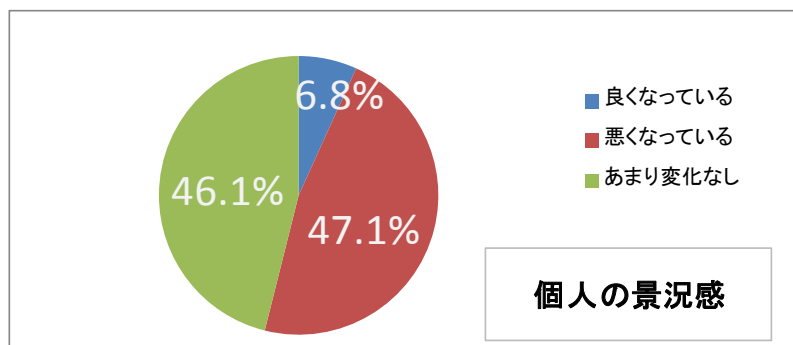
**問10:テクニカル分析では何を主に活用していますか？(ひとつだけ)  
またその活用方法を教えてください。**

今月の特別質問項目として、テクニカル分析では何を主に活用していますか？(ひとつだけ)と尋ねたところ、「移動平均(33.9%)」と答えた割合が最も多く、「テクニカル分析はしない(14.3%)」が2番目に多かった。以下、「ボリンジャーバンド(13.7%)」、「MACD(11.0%)」、「一目均衡表(10.6%)」、「ピボット(5.6%)」と続いた。また、その活用方法について自由記述形式で尋ねたところ、「移動平均」と答えた中では「短期線と長期線の傾きでトレンドを掴む」、「サポートやレジスタンスとして売買ポイントに活用」との記述が目立った。「ボリンジャーバンド」では「バンドの上限や下限にタッチしたら逆張り」との記述が多かった。やはり、見た目が分かりやすく売買ポイントを明確に示すテクニカル分析ツールの人気が高いようだ。



**問11:あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)**

今月のもう一つの特別質問項目として、あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)と尋ねたところ、「良くなっている」が6.8%、「悪くなっている」が47.1%、「あまり変化なし」が46.1%という結果となった。3ヶ月前の第26回調査で同じ質問をした際は「良くなっている」が8.8%、「悪くなっている」が44.2%であった。また、1年前の第17回調査では「良くなっている」が7.0%、「悪くなっている」が45.5%であった。この1年間のFX投資家の景況感に目立った改善は見られない事になる。円売り・外貨買いのポジションを持つ事が多いとされるFX投資家の景況感改善のためには、円安・外貨高傾向の定着が必要なのかもしれない。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第29回目となりました。前月との対比での時系列比較は可能になり始めていますが、開始後2年以上が経過し、前年同期との比較も可能になってきました。しかしながら、まだ十分な時系列データの蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間に渡る時系列比較を十分に提示することはできていませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

## 【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	10月	45.5	24.7	20.8	51.1	17.4	33.7	60.5	15.4	45.1
	11月	22.9	41.8	-18.9	33.6	29.7	3.9	44.6	25.5	19.1
	12月	37.6	31.2	6.4	27.8	37.3	-9.5	41.4	24.0	17.4
	1月	28.5	40.9	-12.4	24.6	45.7	-21.1	41.7	27.4	14.3
2010年	2月	49.9	19.6	30.3	31.6	38.7	-7.1	56.9	14.8	42.1
	3月	37.6	20.9	16.7	30.3	38.2	-7.9	50.0	17.4	32.6
	4月	50.5	19.7	30.8	26.1	44.0	-17.9	53.3	17.5	35.8
	5月	33.9	37.2	-3.3	21.4	59.1	-37.7	40.3	37.1	3.2
	6月	35.9	19.1	16.8	32.9	38.0	-5.1	58.7	15.5	43.2
	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6
	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1
	9月	22.3	43.9	-21.6	36.7	35.8	0.9	47.8	22.5	25.3
	10月	37.3	37.7	-0.4	29.3	37.3	-8.0	38.9	25.8	13.1
	11月	57.4	17.0	40.4	28.2	34.6	-6.4	48.0	17.0	31.0
	12月	42.9	19.2	23.7	19.2	48.7	-29.5	44.0	17.4	26.6
	1月	33.0	23.7	9.3	31.8	38.2	-6.4	37.3	24.8	12.5
2011年	2月	53.2	13.0	40.2	33.6	26.6	7.0	54.8	14.8	40.0
	3月	38.7	43.9	-5.2	35.1	40.2	-5.1	37.7	40.4	-2.7
	4月	48.2	20.7	27.5	43.8	30.7	13.1	51.0	20.0	31.0
	5月	44.3	16.3	28.0	29.4	42.3	-12.9	47.7	19.0	28.7
	6月	33.4	22.1	11.3	25.2	44.3	-19.1	41.2	22.6	18.6
	7月	29.4	38.7	-9.3	22.3	55.3	-33.0	36.2	29.4	6.8
	8月	18.1	45.3	-27.2	20.8	47.4	-26.6	36.3	31.3	5.0
	9月	23.9	27.9	-4.0	21.0	58.5	-37.5	36.4	31.7	4.7
	10月	26.3	21.0	5.3	19.4	61.5	-42.1	40.0	35.0	5.0

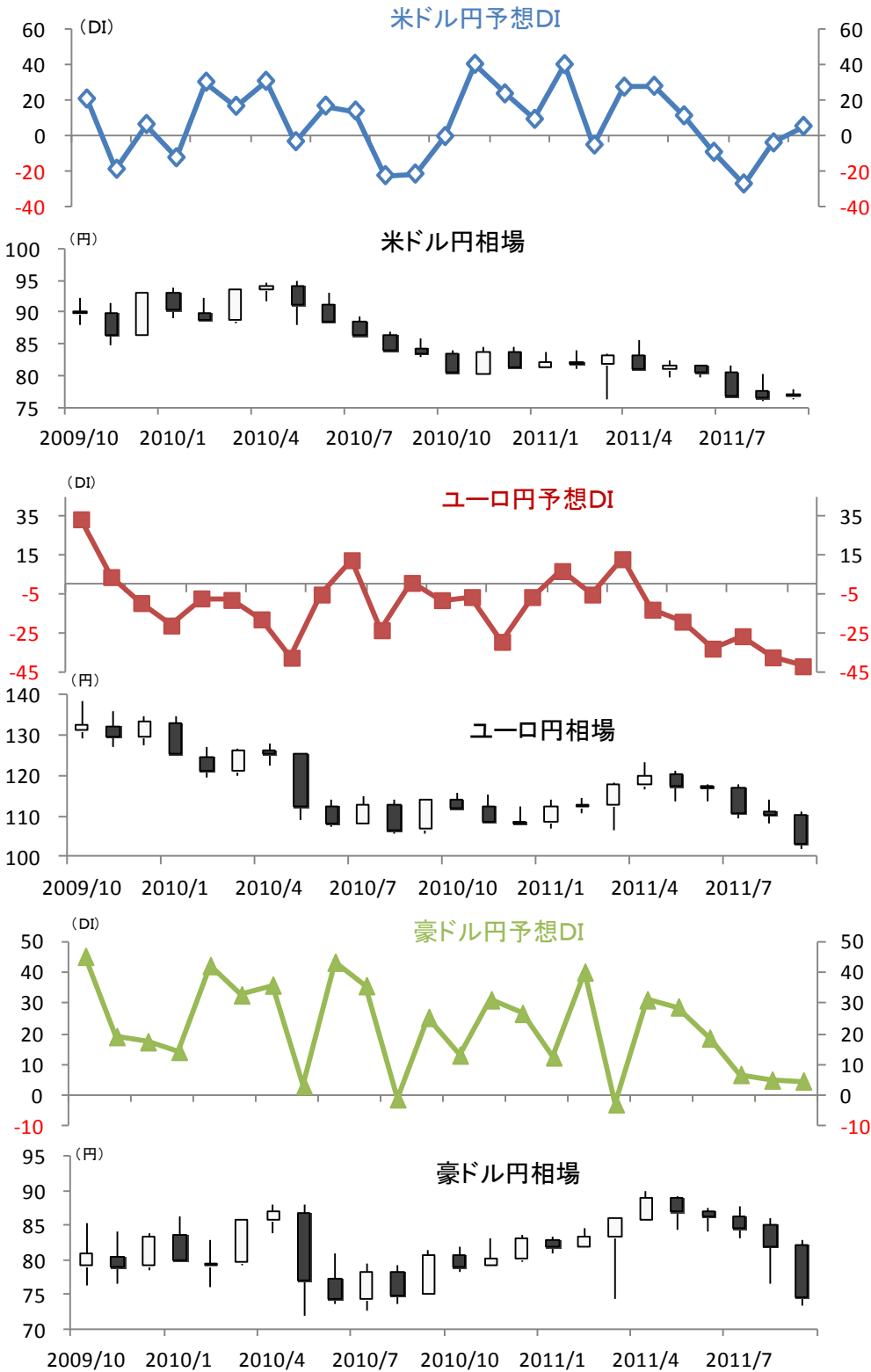
(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com



【付表: 主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



(出所) 外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com